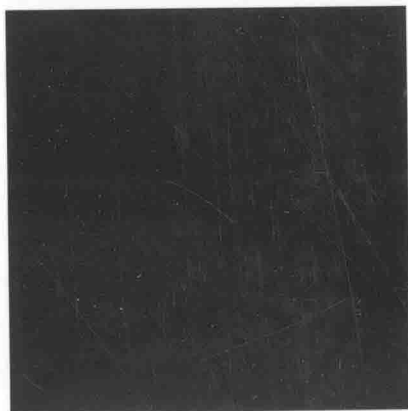


騎手の一分

競馬界の真実

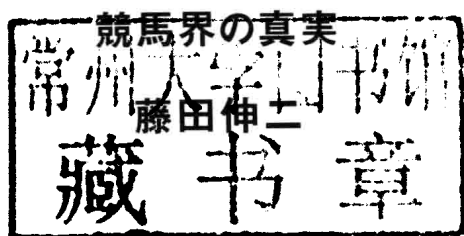
藤田伸二



講談社現代新書

2210

騎手の一分



講談社現代新書

2210

講談社現代新書 2210

騎手きしゅの一分いちぶん——競馬界けいばかいの真実しんじつ

二〇一三年五月二〇日第一刷発行 二〇一三年七月一日第六刷発行

著者 藤田伸二ふじた しんじ ©Shinji Fujita 2013

発行者 鈴木哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二二 郵便番号 一一二一八〇〇一

電話 出版部 〇三—五三九五—三五一

販売部 〇三—五三九五—五八一七

業務部 〇三—五三九五—三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 凸版印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。㊤(日本複製権センター委託出版物)

複写を希望される場合は、日本複製権センター(〇三—三四〇一—二三八二)にご連絡ください。落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。



目次

序章

さらば競馬界

「競馬界」終わりの始まり／腕の立つ騎手が少なくなった／調教師にも馬主にもならない／感謝しているからこそ／失われつつある「騎手の魅力」／昔以上に強くなった「乗り替わりの不安」／あさましい争いには加わらない

第1章

騎手として大切なこと

G1だけが競馬じゃない／「競馬って簡単なんだ」／どうしても勝ちたかった春の天皇賞／騎手にとって一番大切なこと／自分一人の力で勝っているわけじゃない／あうんの呼吸／レースの組み立て／騎手同士の駆け引き／騎手の右利き・左利き／緊張する「一頭入魂」と「スーパ―未勝利戦」／勝負強いジヨッキ―／「俺が走るんじゃないから」／レースのおさらい

第2章 上手い騎手は何が違うのか

武豊の「無難な乗り方」／岡部幸雄の「鞭の扱い方」／「人馬一体」となっている横山典弘／周りがちゃんと見えているか／「ヤリ、ヤラズ」とは／人間づきあいの「上手さ」も必要／岩田康誠の乗り方は認めない／福永祐一は懐が開き過ぎている／技術を超越していた田原成貴／生粋のプロ／厩務員のおかげ／感謝の気持ちの表し方

61

第3章 「強い馬」とは何か

◎のついた馬が「強い馬」とは限らない／馬は本当にわからない／日本競馬史上、一番強い馬は？／別格だったディープリンパクト／逃げ馬は強い／誰が乗っても勝てる馬／血統と手厚い環境／サプリメントに水素水／人間のアスリート並みの馬具／強い馬は「最後のひと伸び」が違う／騎手にできること／馬の追い方／馬の「邪魔をしないこと」が大切

89

第4章 なぜ武豊は勝てなくなったのか

決して衰えたわけじゃない／騎手と調教師の関係が希薄になった／エージェント制度のしくみ／エージェントの力がすべて／次々と降ろされる騎手たち／台頭する大手クラブ／立場が弱くなった調教師／上手い騎手ばかりではない／日本だけがありがたがつている外国人騎手／ある有力馬主との確執／口を出さない馬主、口を出す馬主／ブロとしての意地

終章 最後に伝えておきたいこと

騎手の1週間の流れ／調整ルームなんていない／日本と世界の違い／裁決委員のレベルが低すぎる／競馬学校の応募者が激減／失われつつある騎手の個性／悪いのはJRA

あとがき

166

藤田伸二

23年の軌跡

173

騎手の一分
競馬界の真実

藤田伸二

講談社現代新書

2210

目次

序章

さらば競馬界

「競馬界」終わりの始まり／腕の立つ騎手が少なくなった／調教師にも馬主にもならない／感謝しているからこそ／失われつつある「騎手の魅力」／昔以上に強くなった「乗り替わりの不安」／あさましい争いには加わらない

第1章

騎手として大切なこと

G1だけが競馬じゃない／「競馬って簡単なんだ」／どうしても勝ちたかった春の天皇賞／騎手にとって一番大切なこと／自分一人の力で勝っているわけじゃない／あうんの呼吸／レースの組み立て／騎手同士の駆け引き／騎手の右利き・左利き／緊張する「一頭入魂」と「スーパ―未勝利戦」／勝負強いジョッキ―／「俺が走るんじゃないから」／レースのおさらい

第2章 上手い騎手は何が違うのか

武豊の「無難な乗り方」／岡部幸雄の「鞭の扱い方」／「人馬一体」となっている横山典弘／周りがちゃんと見えているか／「ヤリ、ヤラズ」とは／人間づきあいの「上手さ」も必要／岩田康誠の乗り方は認めない／福永祐一は懐が開き過ぎている／技術を超越していた田原成貴／生粋のプロ／厩務員のおかげ／感謝の気持ちの表し方

61

第3章 「強い馬」とは何か

◎のついた馬が「強い馬」とは限らない／馬は本当にわからない／日本競馬史上、一番強い馬は？／別格だったディープリンパクト／逃げ馬は強い／誰が乗っても勝てる馬／血統と手厚い環境／サプリメントに水素水／人間のアスリート並みの馬具／強い馬は「最後のひと伸び」が違う／騎手にできること／馬の追い方／馬の「邪魔をしないこと」が大切

89

第4章 なぜ武豊は勝てなくなったのか

決して衰えたわけじゃない／騎手と調教師の関係が希薄になった／エージェント制度のしくみ／エージェントの力がすべて／次々と降ろされる騎手たち／台頭する大手クラブ／立場が弱くなった調教師／上手い騎手ばかりではない／日本だけがありがたがつている外国人騎手／ある有力馬主との確執／口を出さない馬主、口を出す馬主／ブロとしての意地

終章 最後に伝えておきたいこと

騎手の1週間の流れ／調整ルームなんていない／日本と世界の違い／裁決委員のレベルが低すぎる／競馬学校の応募者が激減／失われつつある騎手の個性／悪いのはJRA

あとがき

166

藤田伸二

23年の軌跡

173

序章

さらば競馬界

「競馬界」終わりの始まり

プロの世界で長く生きてきたのだから、いつ、どこで、どういう形で引退しようかという「引き際」は、この2〜3年、常に頭の片隅にあった。

万が一の大ケガを想定することもあった。たとえば、落馬事故で鎖骨を折ってしまい、復帰までに2〜3週間かかるとなれば、今後の番組（出走予定）を考えて、「自分のお手馬がこの週には使いそうだな。でも復帰した時、本当に自分の手元に返ってくるのかな」とかね。

常にそういう不安と必死で戦ってきた部分は大きい。リスクマネジメントはプロとして当然だし、体ひとつで挑んでいる勝負の世界。いくら俺が主戦ジョッキーだといっても、その馬にまた乗れるという保証はまったくない。そんなシビアな業界なので、騎乗イメージを膨らませ、自己管理を怠らないなど、常にお手馬とより良い競馬ができるよう努めた。

ところが、今の競馬界は、もうそれどころではないような状況に陥っているんだ。

2013年に入って、「カラスの鳴かない日はあってもアンカツが勝たない日はない」

とさえいわれた安藤さん（安藤勝己元騎手⁽¹⁾）と、石橋さん（石橋守調教師⁽²⁾）という二人の偉大な騎手が、相次いで引退を発表した。

地方と中央（JRA）あわせて通算4464勝、このうちJRAのGI22勝を挙げている安藤さんに関していうと、去年の暮れぐらいから騎手仲間には「腰痛だから、しばらく乗らない」って話していた。ただ、なんとなくそれだけじゃないというか、「近々、引退するんじゃないか」って俺なんかはうすうす感じていた。

毎年1月、騎手免許の更新が行われる。その際、JRAの職員と面接しなければならないんだけど、その日時っていうのが俺たち騎手にはあらかじめアイウエオ順で伝えられる。当然、安藤さんの名前は一番上の方にあるはずなのに、一番下だった。それで「もう

(1) 地方競馬の笠松競馬場で3000勝以上を挙げるほど、絶対的存在だったジョッキ―。アンカツの愛称でファンからも親しまれていた。1976年にわずかに16歳でデビュー。笠松時代の代表的な騎乗馬が、JRA移籍前のオグリキャップ。JRA遠征時に大活躍し、ファンやマスコミの強い後押しで、中央競馬入りする際に必要な学科試験を免除される、いわゆる「アンカツルール」が適用され（現在のルールは廃止）、2003年にJRAに移籍。以後数々の大レースを制して不動の人気を得た。主な騎乗馬にビリーヴ、ザッツザブレンティ、アドマイヤドン、ツルマルボーイ、キングカメハメハ、ダイワメジャー、ダイワスカレット、ブエナビスタ、ダノンシャンティ、マルセリーナなど。地方からJRAに移籍・大成功した先駆者

(2) かつて藤田が所属していた境直行厩舎の兄弟子。現在でも仲がいい。真面目な人柄で人望があり、武豊騎手が敬愛していることでも知られている。主な騎乗馬はミスタースペイン、ライブリマウント、マチカネワラウカド、メイショウサムソンなど

安藤さんは免許を更新する気がないんだ」って確信した。

引退式が行われた2013年2月3日、安藤さんはすでに引退届を出していたので、その日は京都競馬場のジョッキールームに入らず、競馬場の上の階にご家族と一緒の席を取ってもらっていた。俺は用があつて引退式の前に帰らなければならなかったので、調教助手をしているお兄さんのアンミツさん（安藤光彰元騎手^③）をジョッキールームで見かけた時、「ご苦労様でした、とよろしく伝えて下さい」と伝言を頼んで帰った。

安藤さんの中では、ずいぶん前から「1月いっぱい引退する」という心の整理がついていたんだろうと思う。俺としては、1日1頭でいいから、もうしばらく乗っている姿を見たかったけど、安藤さんらしい、ほんとうに潔くて見事な引退だった。

石橋さんは俺の兄弟子だから、引退式るとき、騎手会長のユタカさん（武豊騎手^④）と弟子の俺が二人で花を贈った。その時は少し目が潤んでいたよ。ただ、もう少し早く、たとえばメイショウサムソンの引退後^⑤、それほど経たないうちに調教師試験を受けて合格してくれていれば、俺も騎手として石橋厩舎に貢献できたかなあ、と思う。石橋さんが開業した時、まだ現役でいるかどうかかわからないからね。